

所属・氏名（保健医療学部 医療技術学科 氏名：中原正子）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (報告・発表) アルツハイマー型認知症にお ける新規検査法の開発	共著	2023年5月	第72回日本医学検 査学会	microRNA10b が血液脳関門の機能低下に関わ る機序を解明した。脳は迅速検査が難しいと言 われているが、血液検査で測定可能であることを 提案した。 <u>中原正子</u> 、中山寛尚
2 (学術論文) Comparison of Fully and Partly Compression Socks for Prevention of Leg Swelling during the Working Daytime	共著	2023年2月	Journal of Vascular Medicine & Surgery 2023 Feb. vol. 11(1) pp1-7	種々の着圧ソックスを用いて実圧やふくらはぎの 周径・体積変化の測定、感性評価を行い、効果 を多角的・客観的に判定した。 Kosuke Morinaga, Shigekazu Ishihara, Shun Tarumoto, <u>Masako Nakahara</u> , Toshio Tsuji
3 (報告・発表) アルツハイマー型認知症の新 規検査法開発	共著	2022年10月	JACLaS Award I 受 賞、日本医療検査 科学会	神経変性疾患において脳内 BDNF 発現量は低 下する。その BDNF の発現を制御していると考え られる miR10b を用いた新規検査法を発表した。 石原爽大、中山寛尚、楠本智章、 <u>中原正子</u>
4 (学術論文) Inactivation of axon guidance molecule netrin-1 in human colorectal cancer by an epigenetic mechanism.	共著	2022年4月	Biochem Biophys Res Commun. 2022 Jun. vol. 30 iss. 611 pp146-150	ヒト直腸癌ではエピジェネティックなメカニズム によって軸索誘導因子であるネトリン-1 が不活 性化することを報告した。 Nakayama H, Ohnuki H, <u>Nakahara M</u> , Nishida- Fukuda H, Sakaue T, Fukuda S, Higashiyama S, Doi Y, Mitsuyoshi M, Okimoto T, Tosato G, Kusumoto C.
5 (報告・発表) ストレス応答 miR10b エクソソ ームを標的とする新規アルツハ イマー病評価法の開発	代表	2021年4月- 2024年03月	科研費 基盤研究 (C)	ストレスに応答して血管から発現する miR10b は 血中エクソソームに存在するため、アルツハイマ ー病の新規評価法になり得ることを提案した。
6 (学術論文) Protective Effect of Ferulic Acid against Hydrogen Peroxide Induced Apoptosis in PC12 Cells. 《共同筆頭論文》	共著	2020年12月	Molecules. Vol.26, No.1 pp90	ストレスによる神経細胞のアポトーシスに対し て、フェルラ酸が保護作用をもたらすことを発表 した。 Nakayama H, <u>Nakahara M</u> , Matsugi E, Soda M, Hattori T, Hara K, Usami A, Kusumoto C, Higashiyama S, Kitaichi K.

令和5年5月11日 現在